

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	ガーデンコート矢切		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	令和1年12月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和2年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、北総線の矢切駅から徒歩3分圏内に位置している。近所のスーパーや公園にもお客様とともに、毎日ではないですが買い物や交流をして頂いており、ふれあい会食会にも定期的に参加し、地域住民やボランティアとの交流も積極的にしている。
またガーデンコート内では毎月行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。ごみ捨てや掃除等、お客様に役割や生きがいを持って生活してもらえよう、スタッフ一同取り組んでいます。家庭的な環境の中でお客さという事を忘れず、その中で身近な関係者として関り、ご自宅でこれまで当たり前のようになってきたことがガーデンコートでも出来るような環境づくりを心掛け、安心した生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを大切にしており、利用者と地域住民が交流できるように、地域行事への参加を支援している。丁寧な記録とモニタリングを通して利用者への支援の振り返りをおこない、次の支援につなげるようにしている。利用者家族との連携を深めるため、ブログで情報を提供し、利用者の日常生活の様子を伝える工夫をしている。また、職員面談を定期的におこない、意見を聞いている。提携している医療機関は夜間なども対応してもらえるなど、連携が取れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議の前に社是・経営理念・心得を参加者と唱和を行い、周知や共通認識の基礎作りを行っている。	毎月開催するスタッフ会議で、社是、経営理念、心得を唱和することで、職員間で理念を共有するよう努めており、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にのりお祭りや消防訓練に参加したり、近所のスーパー等に行き物に行ったりを実施している。松戸社協開催のふれあい会食会させて頂いています。	町内会に加入し、地域のお祭りや消防訓練に参加して地域とのつながりを深めている。また、社会福祉協議会主催の「ふれあい会食会」に参加したり、傾聴、フラダンス、折り紙など地域のボランティアが来所しており、地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、民生委員や地域の代表、ご家族に参加して頂いて、生活の状況や事例などを説明しご理解を頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、施設の運営状況や行事の報告、地域活動の参加内容などを報告させて頂いている。参加者様からもご意見を頂き、サービスの向上に努めています。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、ケアマネジャー、薬剤師、利用者、家族などの参加で2か月に1回開催している。報告事項の他に質疑応答の時間を設けており、活発な意見交換がおこなわれている。	運営推進会議には、地域住民の参加があってもよいと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、介護相談員の方に運営推進会議に参加して頂いている。また市の担当者とともに必要に応じて連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	日頃より市の高齢者支援課、地域包括支援センター職員と連携を取りながら、利用者の支援に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回、社内研修を開催し、スタッフに理解をして頂き、身体拘束のないケアを徹底している。また採用スタッフへ雇用前にオリエンテーション実施。	「身体的拘束等の適正化のための指針」を定め、3か月に1回委員会を開催し、毎月のユニット会議で、身体拘束をしないケアについて職員間で共有している。スピーチロックについては、職員間でその都度注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、社内研修を開催し、スタッフに理解をして頂き、身体拘束のないケアを徹底している。また採用スタッフへ雇用前にオリエンテーション実施。			

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に取り入れ、職員に理解して頂き周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書については説明をさせて頂き、ご不明な点が無いかを確認しながら理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施し、ご意見を頂き事業所の運営に反映させて頂いている。	運営推進会議での意見や、法人がおこなう利用者アンケートの結果などを反映するようにしている。また、面会などの時に意見を聞いたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、拠点会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。また3か月に1度定期面談を実施し、意見や提案をしてもらう環境づくりをしている。	毎月開催の拠点会議や、3か月1度の職員面談で職員の意見や提案を聞き取り、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入して、職員個々の評価を行っている。また3か月に1回の定期面談を実施し、意見や提案をしてもらう環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社入社年数別の研修やケアマネなどの役職別研修、また拠点にて1年間の研修計画を立て、社内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会、小規模連絡会、運営推進会議や地域ケア会議への出席をし、交流の機会を作っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様にも見学に来ていただき、施設の雰囲気も感じて頂き、時間をかけてコミュニケーションを図りながら安心を確保した関係を気づけるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前に必ず初回面談を実施し、ご家族様とお話する時間を取り要望や困っていることをお願いお聞きし、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様の要望や不安なことをお聞きし、適切なサービスが受けられるよう提案・対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様と一緒に身の回り事や日常生活の活動を行うようにしており、介護する側、される側の関係ではなく、身近な関係としての関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化がある場合はもちろん、普段の様子も随時報告し、必要に応じて面会して頂き、連携をはりながら本人をさせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族様との外出や面会を自由におこなって頂き、周囲との関係を継続して頂ける環境にしている。月に1回ご家族様のいる施設へ面会に行っているお客様もあります。	友人の訪問や家族との外出など、馴染みの関係が継続できるように家族と連携しながら支援をおこなっている。近隣の施設に入所している家族に面会に行った利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお客様とかかわりを持ち、その中でお客様の関係を把握し仲の良いお客様が関わられる環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされる際に、相談に乗ることを伝え、退所後もお気軽に連絡頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望をお聞きして、ケアプランに反映している。困難な場合にはこれまでの生活歴やご本人のご趣味をご家族様よりお聞きし、意向を把握するよう努めている。	日常の会話の中から利用者の思いや意向を聞き取っている。意思表示できない利用者は、表情や仕草から読み取ったり、家族から情報を得ることで意向の把握に努めている。内容は個人日誌に記録したり、担当者会議などで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時にご本人やご家族様からお聞きして把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の会話や初回面談時にご家族様への聞き取りを行い、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との会話やご家族様との話し合いを行い、要望やアイデアを取り入れた介護計画を作成できるよう努めている。	モニタリングは利用者、家族の満足度も取り入れて毎月実施している。見直しは6か月ごとにおこない、モニタリングやアセスメント、職員の意見、必要に応じて主治医の意見などを集約し、担当者会議で検討し作成している。担当者会議には家族、時には利用者も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ介護計画の取入れ、その内容について実践、結果の記録を残し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望や状況が変化した場合は相談をしながらサービスを決め、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員に働きかけ、活動できる地域資源の把握に努めている。また近くの公園へ散歩に出かけたり、会食会に参加し、地域資源を利用し楽しんでいただけよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしている。連携医療機関を希望された場合は週に1度の往診と夜間急変時にも対応して下さり、ご家族へのその都度連絡をしている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いている。連携医療機関は週1回の往診のほか、利用者の状況をFAXや電話でやりとりしている。歯科医の往診も週1回ある。体調の変化があれば、その都度家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の連携は図っておらず、提携医療機関の医師と連携を図り、随時相談や指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、まめに訪問し、情報交換に努めている。また、普段から病院へ訪問し、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携機関と連携を図る中で主治医が終末期と判断した場合はご家族、主治医と相談をしながら今後の対応について相談し、方針を決めている。	状況に応じて主治医と相談しながら家族の意向を確認し、今後の対応について話し合っている。主治医との連絡は密であり、急変時にすぐ対応できる体制がある。入居時に「救命救急措置に関する意思確認書」にて、緊急時の対応について意思確認をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、対応できるようにスタッフに伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、有事の際にはスタッフが対応できるように研修を行っている。近隣住民との協力体制については希薄な状態であり、今後の課題である。	マニュアルを整備し、各フロアに緊急時の連絡先を掲示している。火災や地震、夜間を想定して年2回の避難訓練を実施し、振り返りもおこなっている。水や食料3日分を備蓄し、懐中電灯や卓上コンロも準備している。地域の防災訓練には利用者も一緒に参加しているが、災害時の協力体制構築までには至っていない。	昨今の異常気象による自然災害に対して断水時、停電時など具体的にマニュアルを見直し、今後、地域性も踏まえ、災害対策を検討することが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を開催し、職員一人一人が意識して言葉かけやプライバシーに配慮しながらケアが行われています。	モラルコンプライアンスや高齢者権利擁護、プライバシー保護など、法人主催の研修を受講している。入浴や排泄時は必ずドアを閉め、居室に入る際はノックする、利用者が不快にならない言葉かけをするなど、利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にとり、その中で希望や要望を聞き出せるよう声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、買い物や散歩等希望がある時には出かけた。食事の時間など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類を選んで頂き、好きな洋服が切れるように提案を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の個々の能力に応じてお手伝いをさせて頂いています。	献立や食材は専門業者に依頼しているが、食欲がない利用者には食が進むような献立に変更している。利用者は出来る範囲で野菜の皮むきや皿拭きなどを手伝っている。季節を感じたり、時には利用者の嗜好に合わせた献立にするなど、食が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に残して、少ない方には定時以外でも水分補給の促しを行っている。食事メニューも食材業者の栄養士が作成し、バランスの取れた食事のメニューが提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行うとともに週1回、歯科往診をし、状態を見て頂き、必要に応じて治療や口腔ケアの指導をして頂いている。また、パタカラ体操などの嚥下体操も実施している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、必要な方にはトイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を支援している。	利用者の日常の様子から、排泄のサインを読み取って声かけをしたり、必要な利用者には時間で誘導している。職員間で排泄のサインを共有したり、会議等で話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等体を動かす機会を作るとともに乳製品の提供など便秘にならないような働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決め入浴しているが、希望者がいる場合には入って頂くなど柔軟に対応している。	入浴は週2回を目安に支援している。入浴をしないという場合は無理強いをせず、日を変えるなどしている。身体状況に合わせて、二人介助、シャワー浴など臨機応変に対応している。また、季節ごとに菖蒲湯や柚子湯などを楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の今までの生活習慣に配慮し、温度や明るさなどを調節し、安心して眠れるよう支援している。また1時間に1回の巡視をおこない、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をいつでも確認できるようファイルにしている。また、服薬時は名前、日付、いつの薬かを読み上げ、スタッフ、本人に確認して頂いてから服薬して頂き、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の会食会や施設内の行事(外食会等)に参加して頂き、楽しみ事を作っている。また、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候に配慮しつつ、散歩に出かけたり地域の会食会やお祭りへの参加、施設での行事で少しの時間だがお花見などを行い、外出の機会をつくっている。	天気の良い日に近くの公園に散歩に行ったり、エントランスで日向ぼっこをしている。利用者の重度化で外出の機会は減っているが、季節ごとに、初詣やお花見、観梅のドライブなどに出かけている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族からお預かりし、ご本人の要望がある時や必要に応じてご家族同意のもと、買い物を行っている。またご家族ご了解のもと出来る方に関しては金銭管理を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所にて自由に使用して頂いている。手紙に関しては、届いた手紙をご本人に渡し、要望があれば散歩等の際に、スタッフと一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は過ごしやすい、温度に設定し、居心地よい環境づくりに努めている。また花や行事の写真を提示し、季節感が感じられる環境にしている。	共用空間にはテーブルや椅子のほかソファもあり、ゆったり座って過ごすこともできる。台所からは調理の音や匂いが漂い、家庭的な雰囲気である。	トイレは車イスでも動ける広いスペースとなっているが、臭気対策について今後工夫が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様で席を一緒にし、会話を楽しめるよう工夫している。またソファを設置し、自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋への持ち込みは、なじみのある家具や日常使用する茶碗、箸等持参して頂き、居心地よく過ごせるよう支援している。	居心地よく過ごせるよう、家族に馴染みの家具や使い慣れた物の持ち込みを勧めている。入居後も趣味を継続し、居室で絵を描いている利用者もいる。タンスの上には物を置かないなど、安全に配慮した居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様一人一人の出来ることを把握し、ご本人の出来ることに関しては声かけをし、スタッフ見守りのもと、安全に配慮しながら行なっている。		